

## 日本産有剣膜翅類検索表

## 5. セナガアナバチ科 (Ampulicidae), アナバチ科 (Sphecidae) の検索

寺 山 守<sup>1)</sup>・田 埜 正<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>〒339-0054 さいたま市岩槻区仲町2-12-29・<sup>2)</sup>〒918-8057 福井市加茂河原1-5-5)

TERAYAMA, Mamoru and TANO, Tadashi : Taxonomic guide to the Japanese Aculeate wasps.

## 5. Ampulicidae and Sphechidae

本報で、セナガアナバチ科とアナバチ科を取り扱う。Alexander (1990, 1992) によると、両亜科ともに、単系統群であることが強く示唆されており、セナガアナバチ科 Ampulicidae にセナガアナバチ亜科 Ampulicinae とアマミセナガアナバチ亜科 Dolichurinae が所属せしめられ、アナバチ科 Sphecidae にアナバチ亜科 Sphecinae, ジガバチ亜科 Ammophilinae, ドロジガバチ亜科 Sceliphrinae の3亜科が所属する。しかし、これら2科を含めた科間の系統関係については高い信頼度の得られた解析結果がなく、未解決部分のままである。解決のためには分子レベルでの系統解析が必要であろう。

属までの検索は寺山 (2005) を参照されたい。本検索表中の各種の分布は国内に限定したもので、下記の記号で生息地域を示した。

北：北海道，本：本州，四：四国，九：九州，対：対馬，種：種子島，屋：屋久島，琉：琉球列島（奄：トカラ・奄美諸島，沖：沖縄諸島，宮：宮古諸島，八：八重山諸島），伊：伊豆諸島，小：小笠原群島，火：火山列島（硫黄列島），千：千島列島。

## セナガアナバチ科 Ampulicidae

前胸部が前方に長く伸長する特徴的な形態を持つことで、他のアナバチ類とは容易に区別される。世界に2亜科6属約170種が記録されており、熱帯・亜熱帯を中心に分布する。日本からは2亜科2属5種が記録されているが、*A. micado* と *A. dentata* は正体が確かめられず、また分類学的処理上の問題点も多く (Tsuneki, 1982)，ここでは取り扱わない。また、人為的移入種として報告されている *A. amoena* は *A. dissector* となる。

本科の種はゴキブリ類を狩り、子の餌としているが、営巣性を示さない。メスは餌を見つけると、それに刺針し、麻酔させると自然の坑道や窪みに獲物を搬入して産卵し、木屑や土塊を用いて入り口を簡単に閉塞する。

## セナガアナバチ亜科 Ampulicinae

セナガアナバチ属 *Ampulex*

全身が金属光沢をもつ美しい種で、今のところ2種が知られている。触角挿入孔は2葉状の額片によっておおわれる。

セナガアナバチ属の種の検索

1a. 前翅の肘室は2個.

1b. 後脚の腿節は赤褐色.

..... サトセナガアナバチ *Ampulex dissector* (Thunberg, 1822) 本, 四, 九, 対, 屋

1aa. 前翅の肘室は3個.

1bb. 脚は全体が青藍色.

..... ミツバセナガアナバチ *Ampulex tridentata* Tsuneki, 1982 琉

ヒメセナガアナバチ亜科 Dolichurinae

ヒメセナガアナバチ属 *Dolichurus*

全身黒色を呈し, 触角挿入孔が2裂しない額片によっておおわれる. アマミセナガアナバチ *Dolichurus amamiensis* Tsuneki et Iida, 1964 1種のみが琉球に生息する (図1-6).

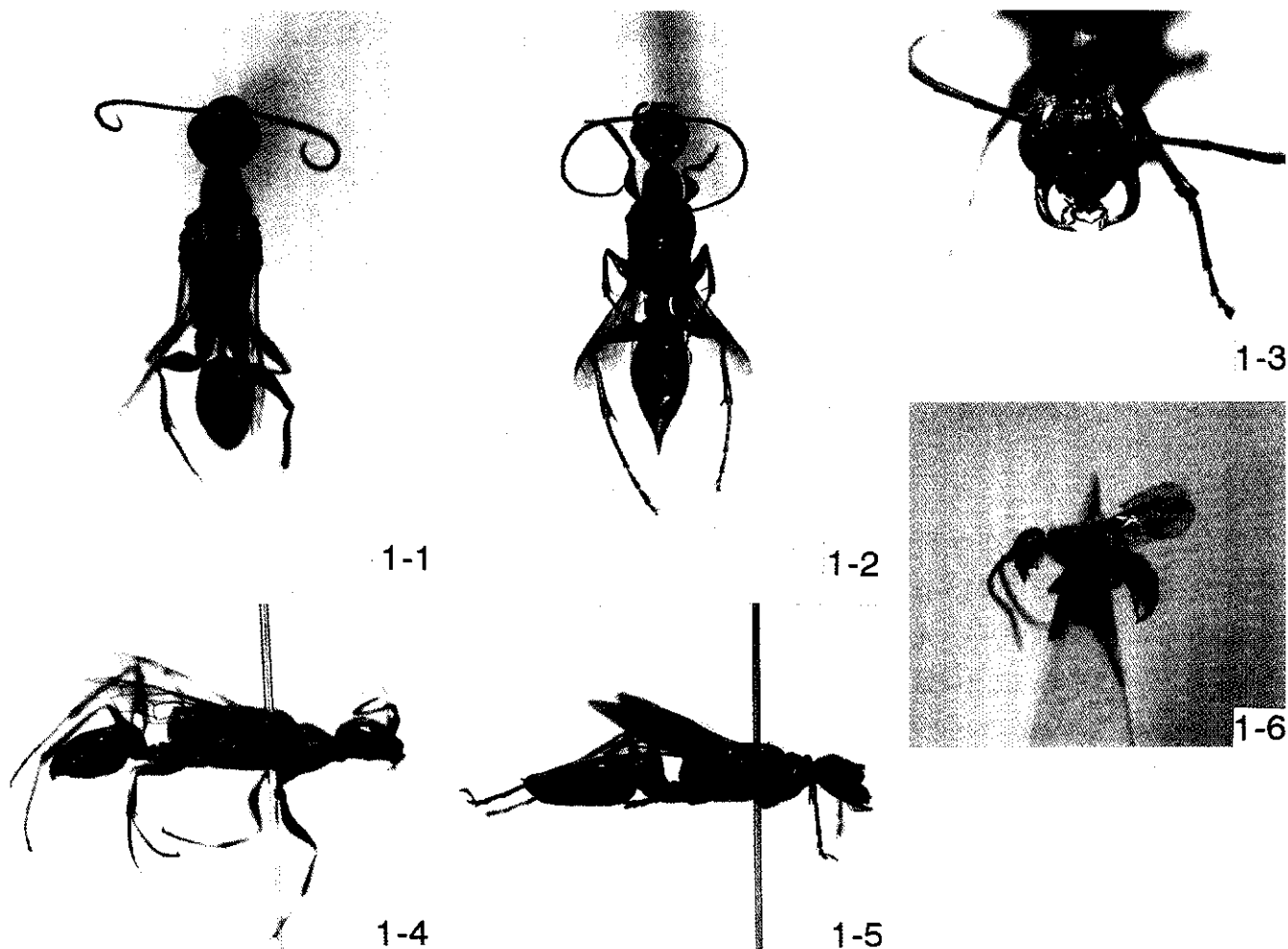


図1. セナガアナバチ科 Ampulicidae の種.

1-1, 1-4, サトセナガアナバチ *Ampulex dissector*, メス ; 1-2, 1-3, 1-5, ミツバセナガアナバチ *Ampulex tridentata*, メス ; 1-6, アマミセナガアナバチ *Dolichurus amamiensis*, メス

## アナバチ科 Sphechidae

本科には比較的大形の種が多く、世界に3亜科16属に約700種が記録されており、世界に広く分布する。日本からは3亜科7属20種が記録されているが、*Sphex subtruncatus* Dahlbom, 1843は日本における分布記録が疑問である。本検索表では*S. subtruncatus*を除く19種を取り扱う。アナバチ亜科 Sphecinaeには3属が、ジガバチ亜科 Ammophilinaeには2属が、ドロジガバチ亜科 Sceliphroninaeには3属が含まれる。雌雄の識別は、交尾器が確認できない場合は、触角の節数で容易に区別でき、雌は触角が12節からなり、雄では13節からなる。

代表的な狩人蜂の仲間である。土中に営巣するものから、竹筒に営巣するもの、土で巣を作るものまでが見られる。狩りの対象となる餌はクモ、直翅類、鱗翅類のチョウやガの幼虫までが見られる。外来生物種の目録にニッポンモンキジガバチ、キゴシジガバチ、アメリカジガバチ、オキナワアナバチの名が上がることもあるが、アメリカジガバチ以外は少なくとも明治期以降の外来種ではないと思われる。

### アナバチ亜科 Sphecinae

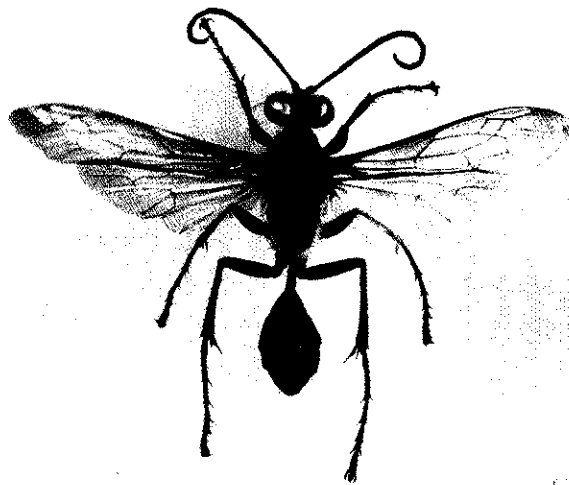
腹柄節の短いグループがここに含まれ、日本にはオオアナバチ属 *Sphex*、ツツアナバチ属 *Isodontia*、トゲナガアナバチ属 *Prionyx* の3属が生息している。直翅類を餌として狩る。

#### オオアナバチ属 *Sphex*

大形の種で、4種が含まれる。腹部第1節は非常に短く、胸部の幅の半分以下。前伸腹節は側方から見て気門から後方にかけて深い斜溝がある。

#### オオアナバチ属の種の検索

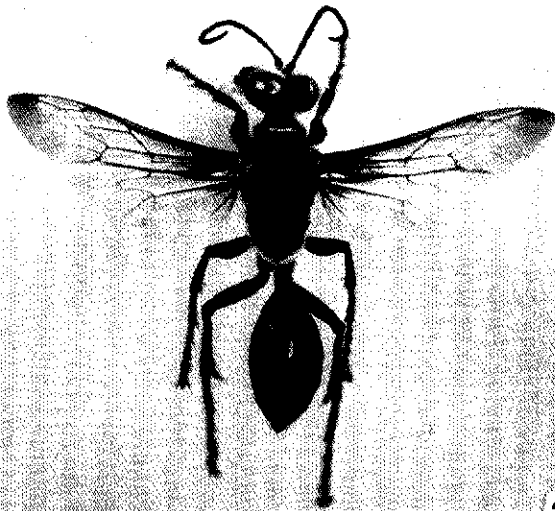
- 1a. メスの頭部、胸部は金色を帯びた橙褐色の目立つ毛で密におおわれる。
- 1b. メスの脚は大部分橙色。
- 1c. オスの腹部に明瞭な赤色部がある (図3-5).
  - ..... キンイロアナバチ *Sphex sericeus* (Fabricius, 1804) 琉
- 1aa. メスの胸部の毛は灰白色から黒色で、短く目立たない。
- 1bb. オス、メスともに脚の大部分は黒色。
- 1cc. オスの腹部に赤色部はない。
  - ..... 2
- 2a. 頭盾と顔面の毛は灰黄色から橙褐色。
- 2b. 前伸腹節の毛は灰黄色から橙褐色 (図2-1; オスではやや淡い傾向がある)。
- 2c. 翅は多少とも曇る程度。
  - ..... キンモウアナバチ *Sphex diabolicus* Smith, 1858 本, 九, 屋, 琉
- 2aa. 頭盾と顔面の毛は灰白色から銀白色。
- 2bb. 前伸腹節の毛は灰白色から銀白色 (図2-2)。



2-1



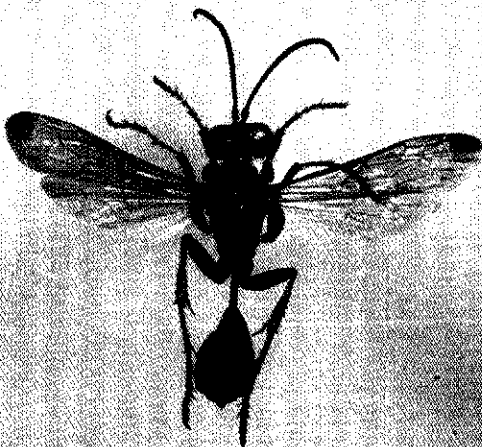
2-3



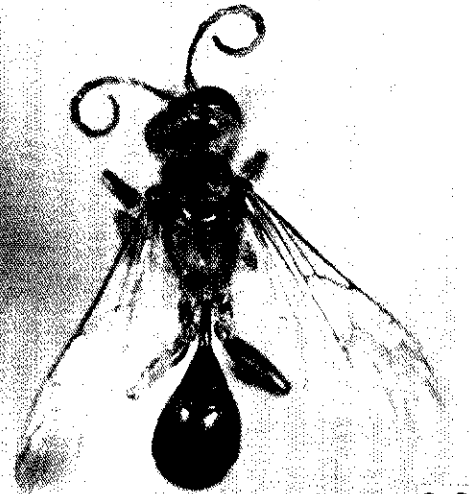
2-2



2-4



2-5



2-6

図2. アナバチ亜科 Sphecinae の種 (1).

2-1, キンモウアナバチ *Sphex diabolicus*, メス ; 2-2, クロアナバチ *Sphex argentatus*, メス ; 2-3, 2-4, フクイアナバチ *Sphex inusitatus* (2-3, メス ; 2-4, オス) ; 2-5, コクロアナバチ *Isodontia nigella*, メス ; 2-6, オガサワラアナバチ *Isodontia boninensis*, メス.

2bb. 翅は多少とも曇る程度.

..... クロアナバチ *Sphex argentatus* Fabricius, 1787 本, 四, 九, 屋, 琉

2aaa. 頭盾の毛は黒から黒褐色.

2bbb. 前伸腹節の毛はメスでは黄色を帯びた白色で, オスは白色.

2ccc. 翅は比較的強く曇る (図2-3, 2-4).

..... フクイアナバチ *Sphex imisitatus* Yasumatsu, 1935 本, 九

ツツアナバチ属 *Isodontia*

オオアナバチ属よりも小形で, 腹部第1節はやや長く, とくにオスでは胸部の幅程度ある. また, 前伸腹節は側方から見て気門から後方にかけて明瞭な斜溝がないことでオオアナバチ属の種と区別される. 近年, ツマキツツアナバチ *I. auripygata* (Strand, 1913) が西表島から報告された (長瀬, 2005; 高橋 2005). これによって日本産の本属は5種となった.

ツツアナバチ属の種の検索

1a. 腹部の末端数節は赤褐色. 腹部第1節 (腹柄節), 第2節は黒色で, 第3節から第4節, あるいは第5節の後縁には少なくとも赤褐色の帯がある.

..... ツマキツツアナバチ *Isodontia auripygata* (Strand, 1913) 琉

1aa. 腹部は単色で黒から黒褐色.

..... 2

2a. 頭盾およびその上方は鋸色の伏した細毛で密に覆われ, よって頭盾と顔面は明瞭な銀白色となる. 頭盾に斜立する長毛も銀白色 (多少黄色味を帯びることがある).

..... コクロアナバチ *Isodontia nigella* (F. Smith, 1856) 北, 本, 九, 対, 琉

2aa. 頭盾およびその上方の銀白色毛はあっても目立たない. 頭盾に斜立する長毛は黄褐色から暗褐色.

..... 3

3a. 前翅は黄色味を強く帯び, 先端はやや曇る (オスの前翅は淡黒褐色味がより強い).

3b. メスの後脚腿節は黒色 (図3-1).

3c. オスの触角第5節は長く, 第4節の1.5倍.

..... キバネアナバチ *Isodontia maidli* (Yasumatsu, 1938) 本, 四, 九, 屋, 奄

3aa. オス・メスともに前翅は淡黒褐色を帯びる.

3bb. メスの後脚腿節は赤色 (図3-2).

3cc. オスの触角第5節は短く, 第4節の1.2倍.

..... アルマンアナバチ *Isodontia harmandi* (Pérez, 1905) 本, 四, 九, 対

3aaa. 前翅は透明で, 外縁部は淡褐色の帯となる.

3bbb. メスの後脚腿節は黒色 (図2-6).

3ccc. オスの触角第5節は短く, 第4節の1.2倍.

..... オガサワラアナバチ *Isodontia boninensis* (Tsuneki, 1973) 小

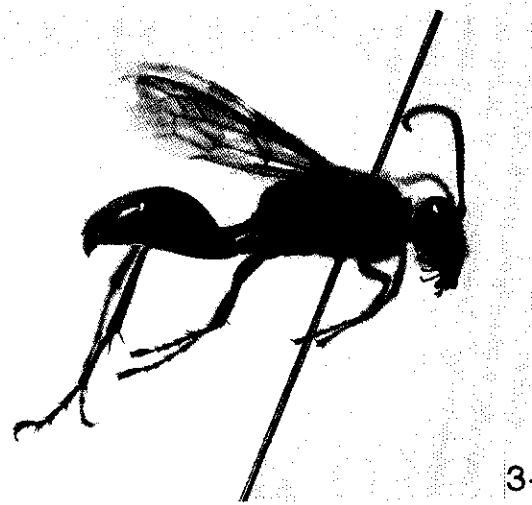
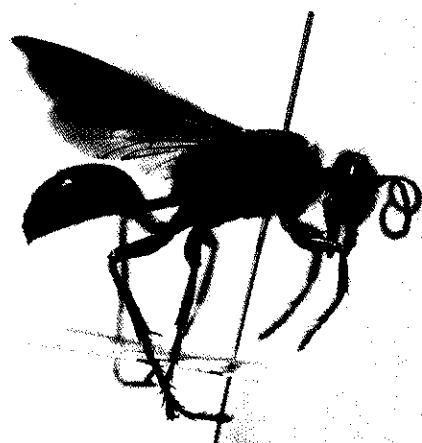
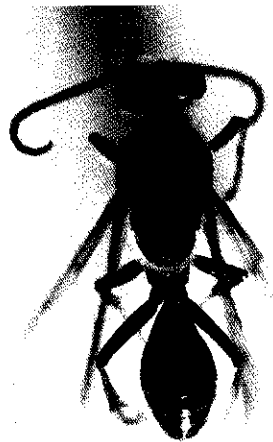
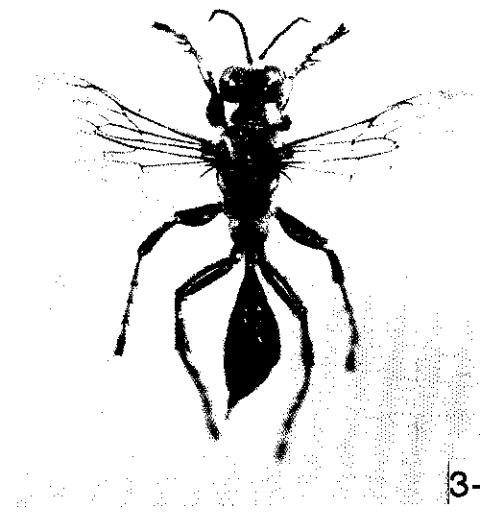
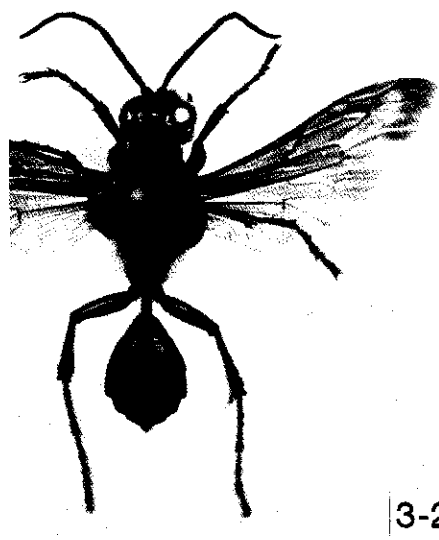


図3. アナバチ亜科 Sphecinae の種 (2).

3-1, キバネアナバチ *Isodontia maidli*, メス ; 3-2, アルマンアナバチ *Isodontia harmandi*, メス ;  
3-3, 3-6, オキナワアナバチ *Prionyx viduatus* (3-3, メス ; 3-6, オス) ; 3-4, 3-5, 3-7, 3-8,  
キンイロアナバチ *Sphex sericeus* (3-4, 3-7, メス ; 3-5, 3-8, オス).

トゲナガアナバチ属 *Prionyx*

オキナワアナバチ *Prionyx viduatus* (Christ, 1791) 1種のみが見られる (図3-3, 3-6). 本種のメスでは, 前脚付節の外側に第1付節の長さをはるかに越える長毛を持ち, オスでは触角第1節 (柄節) は第3節と同長かわずかに短い程度で, かつこぶ状に肥厚することはないことで他種との区別は容易である. 琉球に生息.

### ジガバチ亜科 *Ammophilinae*

腹柄節が長く伸び, かつ2節からなる. 日本にはジガバチ属 *Ammophila* とツツジガバチ属 *Hoplmmophila* の2属を産する.

ジガバチ属 *Ammophila*

腹部第2節は第1節と同様に柄状で, 後方でごくわずかに広くなる程度. また, 腹柄第2節の気門はその腹節両側の中央より後方にある. 日本には3種が生息する.

### ジガバチ属の種の検索

- 1a. 前胸背板の背面と中胸背板は, 横向きに強く条刻される.
- 1b. オスの腹部第3節のほぼ全体が黒色 (図4-7, 4-9).
- 1c. メスの腹柄節, 脚, 触角柄節の大部分は橙色 (図4-8).  
..... フジジガバチ *Ammophila atripes* Smith, 1852 本, 九, 屋, 琉
- 1aa. 中胸背板が条刻されることはあっても, 前胸背板背面が条刻されることはない.
- 1bb. 腹部第3節は赤褐色 (図4-4~4-6).
- 1cc. メスの脚と触角柄節は大部分黒色 (図4-4, 4-6).  
..... 2
- 2a. メスの中胸背板の点刻は小さく疎らで, しわ状にならない (図5-3). メスの中胸側板の点刻も小さく疎らのことが多く, 各点刻は明瞭に分離する.
- 2b. オスの中胸背板後方で点刻が乱れて多少しわ状になるが, 前方にある点刻は小さく散在している (図5-4).
- 2c. オスの中胸側板の点刻はやや輪郭が不明瞭だが, 基本的には分離する.  
..... ヤマジガバチ *Ammophila infesta* F. Smith, 1873 北, 本, 四, 九, 屋, 奄
- 2aa. メスの中胸背板の点刻は輪郭が不明瞭で, 横または斜めのしわとなる (図5-1). メスの中胸側板の点刻は大きく密で, つながってしわ状となる.
- 2bb. オスの中胸背板に強い横じわがある (図5-2).
- 2cc. オスの中胸側板の点刻は密で, しわをなす.  
..... サトジガバチ *Ammophila sabulosa* (Linnaeus, 1758) 北, 本, 四, 九, 対, 屋

ツツジガバチ属 *Hoplmmophila*

ミカドジガバチ *Hoplmmophila aemulans* (Kohl, 1901) 1種のみが知られる (図4-3). 腹部第2節は後方にやや膨大して幾分腹節状となる. また, 腹部第2節の気門はその腹節両側のほぼ中央にあることで, ジガバチ属の種と区別される.

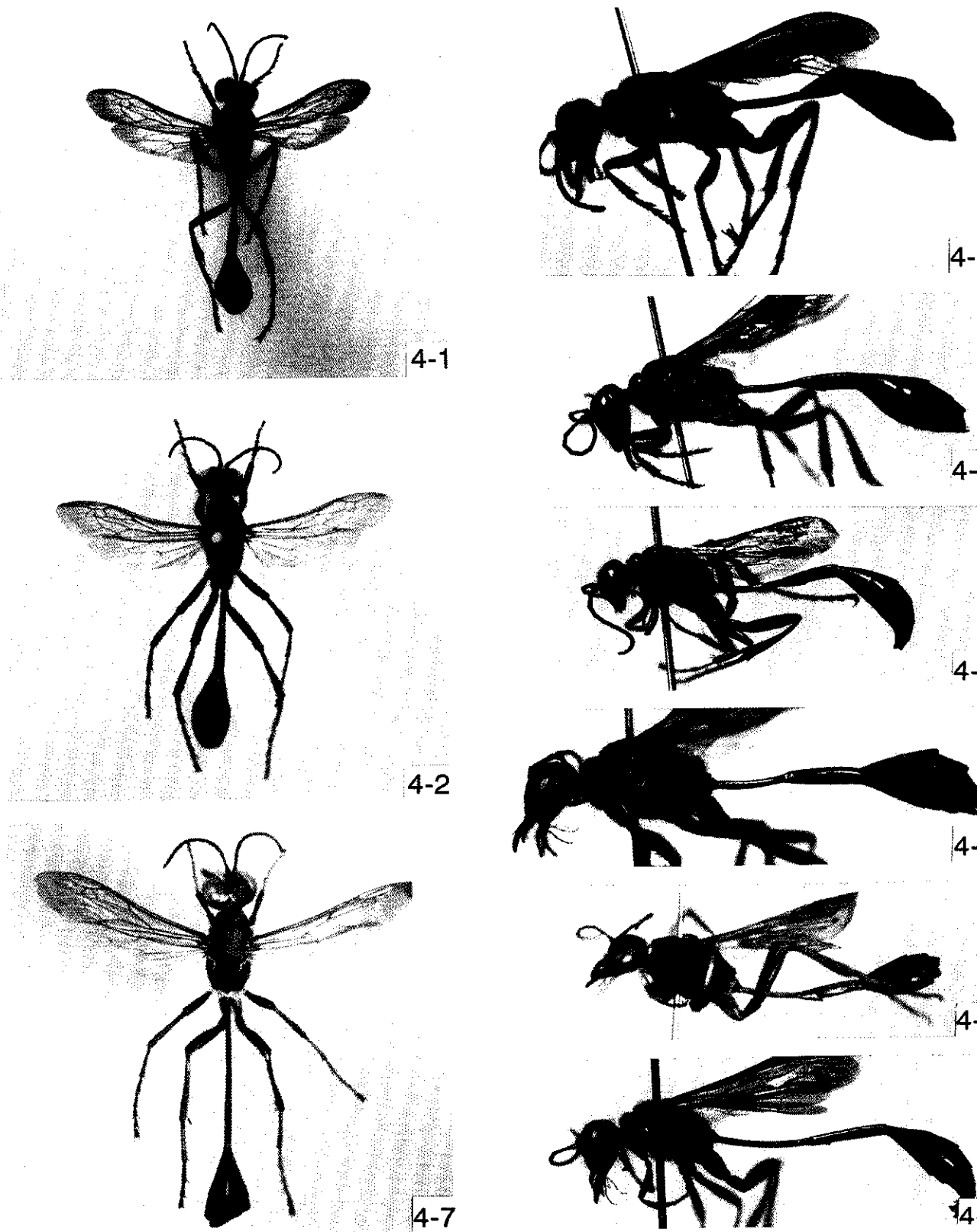


図4. ジガバチ亜科 Ammophilinae の種.

4-1, 4-4, 4-5, ヤマジガバチ *Ammophila infesta* (4-1, 4-4, メス ; 4-5, オス) ; 4-3, ミカドシ  
 ガバチ *Hoplammophila aemulans*, メス ; 4-2, 4-6, サトジガバチ *Ammophila sabulosa*, メス ;  
 4-7, ~4-9, フジジガバチ *Ammophila atripes* (4-7, 4-9, オス ; 4-8, メス).



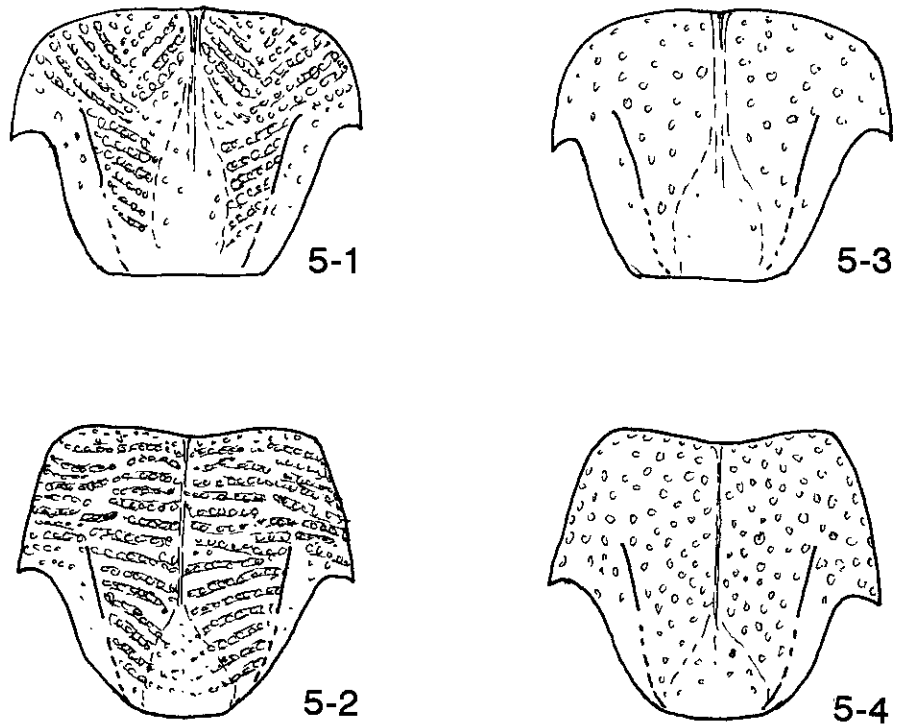


図5. サトジガバチ及びヤマジガバチの中胸背板，背面。

5-1, 5-2, サトジガバチ *Ammophila sabulosa* (Linnaeus, 1758) (5-1, メス ; 5-2, オス) ; 5-3, 5-4, ヤマジガバチ *Ammophila infesta* Smith, 1873 (5-3, メス ; 5-4, オス)。

#### ドロジガバチ亜科 Sceliphroninae

腹柄は1節からなるが，長く，ふつう胸部の幅の長さかそれ以上の長さがある。ドロジガバチ属 *Sceliphron* とルリジガバチ属 *Chalybion* の2属からなる。

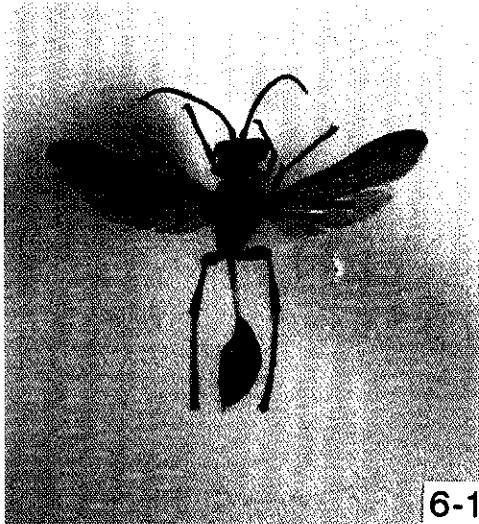
#### ドロジガバチ属 *Sceliphron*

体は黒色で，ふつう黄色から赤褐色の斑紋がある。3種が生息するが，アメリカジガバチは海外から侵入，定着した外来種である。その一方で，ニッポンモンキジガバチやキゴシジガバチを外来種としている文献や書籍があるが，その可能性は低い。

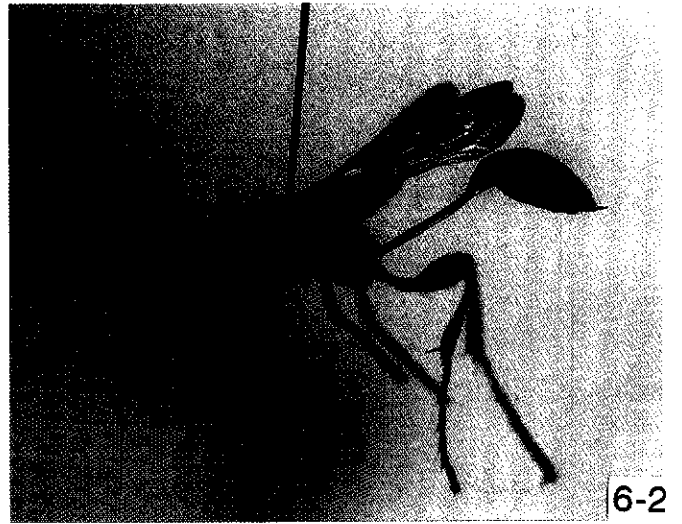
#### ドロジガバチ属の種の検索

- 1a. 腹柄節（腹部第1節）は黒色で強くカーブする（図6-6）。
- 1b. 脚の大部分は黒あるいは黒褐色（図6-5）。

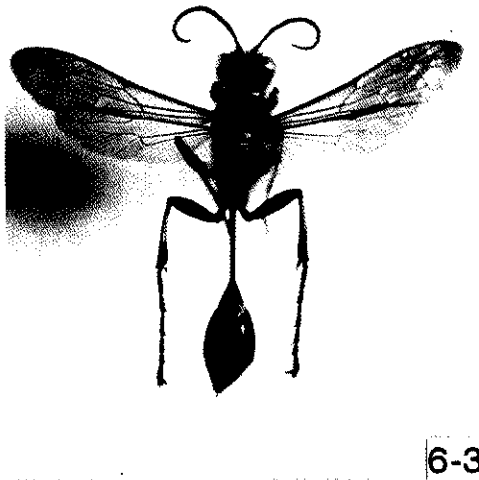
…………… モンキジガバチ *Sceliphron deforme* (Smith, 1856) 北，本，四，九，対，沖



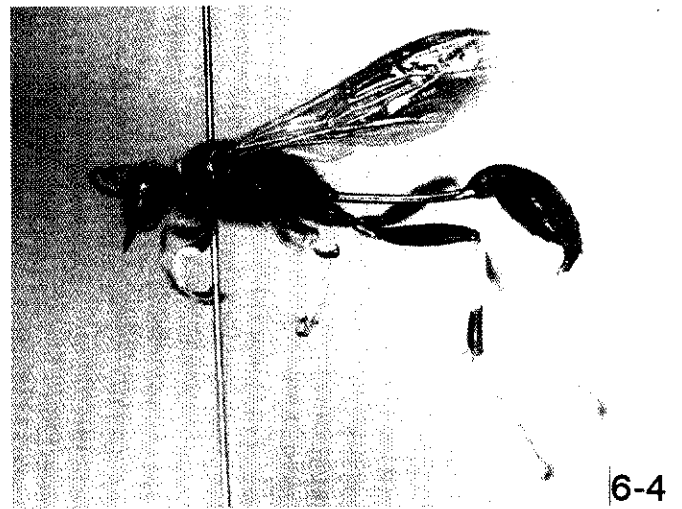
6-1



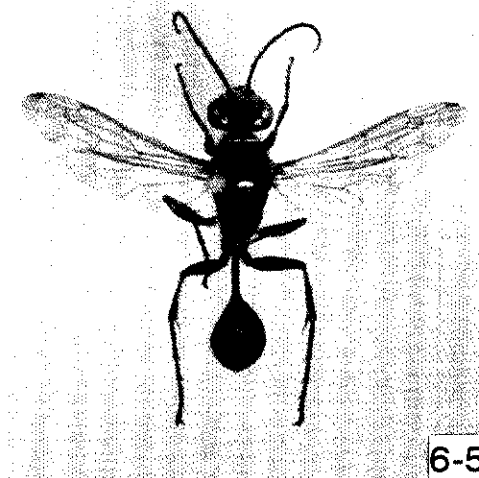
6-2



6-3



6-4



6-5



6-6

図6. ドロジガバチ亜科 Sceliphroninae の種 (1), ドロジガバチ属 *Sceliphron*.

6-1, 6-2, キゴシジガバチ *Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum*, メス; 6-3, 6-4, アメリカジガバチ *Sceliphron (Sceliphron) caementarium* (6-3, メス; 6-4, オス); 6-5, 6-6, モンキジガバチ *Sceliphron (Hensenia) deforme*, メス.

1aa. 腹柄節は黄色でほぼ直線状 (図6-2).

1bb. 脚には黄色部が多い (図6-1).

..... キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum* (Fabricius, 1781) 本, 四, 九, 対, 琉

1aaa. 腹柄節は黒色でほぼ直線状 (図6-4).

1bbb. 脚には黄色部が多い (図6-3).

..... アメリカジガバチ *Sceliphron caementarium* (Drury, 1773) 本, 九, 小, 火  
(硫黄島), 南鳥島

#### ルリジガバチ属 *Chalybion*

全身が瑠璃色の美しい金属光沢を持つ属で, 日本には2種が生息する. クモを狩って幼虫の餌とする.

#### ルリジガバチ属の種の検索

1a. 腹柄節は直線状に近く, わずかに弧を描く程度 (図7-3).

1b. 膨腹部後縁近くの両側に白毛の束をもつ.

1c. 前翅径脈の第4脈節は長い.

..... ベンガルルリジガバチ *Chalybion bengalense* (Dahlbom, 1845) 沖, 八, 小, 火

1aa. 腹柄節は強くカーブする (図7-2).

1bb. 膨腹部後縁近くに白毛の束はない.

1cc. 前翅径脈第4脈節は短く, 第3脈節とほぼ同じ長さ.

... ヤマトルリジガバチ *Chalybion japonicum* (Gribodo, 1883) 本, 四, 九, 対, 屋, 琉, 小

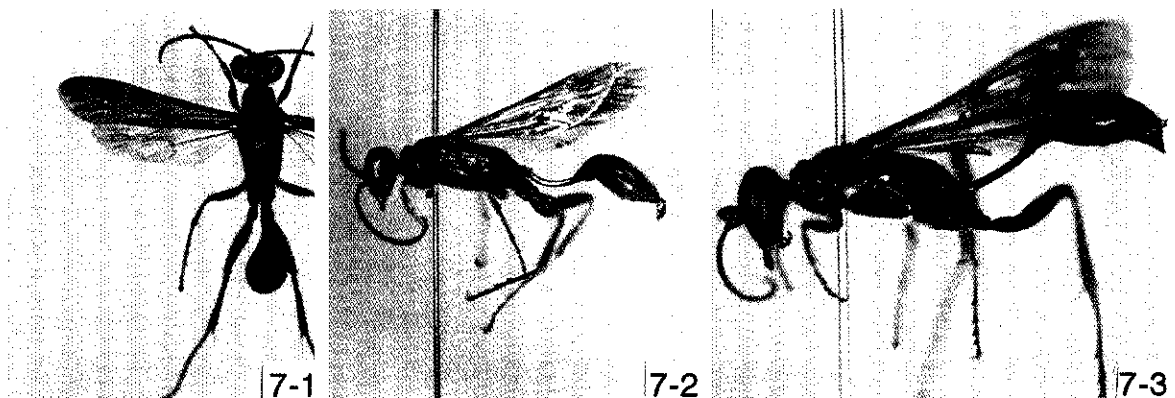


図7. ドロジガバチ亜科 Sceliphrinae の種 (2), ルリジガバチ属 *Chalybion*.

7-1, 7-2, ヤマトルリジガバチ *Chalybion (Chalybion) japonicum* (7-1, メス; 7-2, オス); 7-3, ベンガルルリジガバチ *Chalybion (Chalybion) bengalense*, メス.

## 種の概説

### セナガアナバチ科 Family Ampulicidae

#### セナガアナバチ亜科 Subfamily Ampulicinae

サトセナガアナバチ *Ampulex dissector* (Thunberg, 1822) (図1-1, 1-4)

体長14-18mm. 体は金属光沢をもつ青色で、後脚腿節は赤褐色を呈する。触角挿入孔は2葉状の額片によっておおわれる。前胸背板中央に明瞭な縦走溝がある。前翅の肘室は2個。人為的移入種と考えられており、クロゴキブリやワモンゴキブリ、コワモンゴキブリ等の家屋のゴキブリを狩る。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島；朝鮮半島，台湾，中国。

ミツバセナガアナバチ *Ampulex tridentata* Tsuneki, 1982 (図1-2, 1-3, 1-5)

体長13-20mm. 体は金属光沢をもつ青藍色で、青味の強い個体と紫味の強い個体とがある。全体が青藍色。触角挿入孔は2葉状の額片によっておおわれる。前胸背板中央の縦走溝は痕跡的である。前翅の肘室は3個。

森林性のゴキブリを狩るようである。琉球列島の奄美大島と石垣島，西表島から得られて分布：琉球。

#### アマミセナガアナバチ亜科 Subfamily Dolichurinae

アマミセナガアナバチ *Dolichurus amamiensis* Tsuneki et Iida, 1964 (図1-6)

体長5-13mm. 全身黒色を呈し、触角挿入孔が2裂しない額片によっておおわれる。

分布：琉球；台湾，フィリピン，タイ，スリランカ。

### アナバチ科 Family Sphecidae

#### アナバチ亜科 Subfamily Sphecinae

ツマキツツアナバチ *Isodontia auripygata* (Strand, 1913)

体長21-28mm. 頭部，胸部は黒色。腹部の末端数節は赤褐色。腹部第1節（腹柄節），第2節，第3節から第4，あるいは第5節の後縁には少なくとも赤褐色の帯がある。翅は黄褐色となる。

腹部の色彩により，他種との区別は容易である。また，高橋（2005）に標本写真が示されている。

分布：琉球（西表島）；台湾，中国，ベトナム。

オガサワラアナバチ *Isodontia boninensis* (Tsuneki, 1973) (図2-6)

体長15mm程度。体は黒色で、脚も黒色。翅は透明で、前翅、後翅ともに外縁は淡褐色に曇る。頭盾および顔面は黄褐色の毛をそなえ、胸部と腹部第1節には白色の毛をそなえる。

分布：小笠原。

アルマンアナバチ *Isodontia harmandi* (Pérez, 1905) (図3-2)

体長15-25mm。体は黒色。翅は先端部のみが曇る。後脚腿節、脛節、付節が赤色であることで、他種との区別は容易である。

ササキリ類やツユムシ、クツワムシ等を狩る。竹筒や木材のカミキリムシの脱出孔等に巣を作る。コケを使って育房の仕切りや入り口をふさぐ。

分布：本州、四国、九州、対馬；朝鮮半島。

キバネアナバチ *Isodontia maidli* (Yasumatsu, 1938) (図3-1)

体長20mm程度。体全体が黒色。腹柄節はやや長い。翅は全面で黄褐色にくもり、他種と容易に区別される。

枯木の坑に造巣し、コケで巣口をふさぐ。クツワムシ、ヤブキリ、ウマオイ等のキリギリス類やササキリ類を狩る。

分布：本州、四国、九州、屋久島、奄美大島。

コクロアナバチ *Isodontia nigella* (F. Smith, 1856) (図2-5)

体長15-24mm。黒色の種。腹柄節(腹部第1節)はやや長く、腹部第2節よりも明らかに長い。翅は淡黒褐色にくもる。頭盾と顔面が顕著な銀白色で、同属の他種との区別は容易である。

本属での最普通種で、竹筒や木材の孔に巣を作り、枯れ草やわら等で入り口をふさぐ。ササキリ類を狩り、一度に4、5頭を巣に入れる。

分布：北海道、本州、九州、対馬、琉球；朝鮮半島、シベリア、東南アジア、オーストラリア。

オキナワアナバチ *Prionyx viduatus* (Christ, 1791) (図3-3, 3-6)

体長12-24mm。頭部、胸部は黒色で銀白色の毛を密生する。腹部は黒色で、第2節と3節に赤褐色部が見られる。メスでは、前脚付節の外側に第1付節の長さをはるかに越える長毛を持ち、オスの触角柄節は触角第3節と同長かわずかに短い程度で、こぶ状に肥厚することはない。

琉球に普通に見られ、バッタ類を狩る。土中に営巣する。

分布：琉球；台湾、中国、インド、中東、ヨーロッパ、アフリカ。

クロアナバチ *Sphex argentatus* Fabricius, 1787 (図2-2)

体長20-30mm。黒色で、頭盾と顔面、前伸腹節に銀白色毛が見られる。

地中に穿孔営巣し、ツユムシ類やクビキリギリス類等直翅目の幼虫や成虫を狩る。巣の両側に1つずつ、にせの浅い坑道を掘ることが知られている。

原名亜種 *S. a. argentatus* Fabricius, 1787 は琉球から台湾、東南アジア、オーストラリアにかけて分布し、本土、屋久島および朝鮮半島に分布するものを亜種 *S. a. fumosus* Kohl, 1890 と呼ぶ。

分布：本州，四国，九州，屋久島，琉球；朝鮮半島，台湾，東南アジア，インド，スリランカ，オーストラリア，ニューギニア。

キンモウアナバチ *Sphex diabolicus* Smith, 1858 (図2-1)

体長23-30mm. 体は黒色で，頭盾や顔面の毛は橙褐色味を帯びる．また前伸腹節に黄金色の長毛を多く生やす．

土中に営巣し，ツユムシやクダマキモドキ等を狩り，一室に2，3頭を貯える．

日本産のものは亜種 *S. d. flammitrichus* Strand, 1913 とされる．

分布：本州，九州，屋久島，琉球；台湾，中国，フィリピン，ベトナム，インド，スリランカ，マレーシア，インドネシア．

フクイアナバチ *Sphex inusitatus* Yasumatsu, 1935 (図2-3, 2-4)

体長20-30mm. 体は黒色で，頭盾と顔面の毛が黒から黒褐色であることにより，前2種と容易に区別される．前伸腹節の毛は黄白色から白色．

土中に巣を作り，ハネナシコロギスを餌として狩る．1室に5頭から7頭を貯える．

九州，中国のものは原名亜種，本州産の個体群は亜種 *S. i. fukuianus* Tsuneki, 1957 とされるが今後の精査を必要としている．

分布：本州，九州；中国．

キンイロアナバチ *Sphex sericeus* (Fabricius, 1804) (図3-4, 3-5, 3-7, 3-8)

体長20-25mm. 前翅・後翅の外縁はともに幅広く暗褐色にくもる．脚は黒色．雌雄で色彩が大きく異なる．メスの頭部と胸部は金色光沢を持つ橙褐色の毛でおおわれる．腹部は黒色．オスの頭部と胸部は白色味を帯びた毛を持ち，腹部には赤褐色紋をもつ．

日本産のものは亜種 *S. s. lineolus* Lepeletier, 1845 とされ，日本では沖縄島からのみ得られている．

分布：琉球（沖縄島）；台湾，フィリピン，中国，スマトラ，ミャンマー，インド，スリランカ，インドシナ半島，パプアニューギニア，北部オーストラリア．

ジガバチ亜科 Subfamily Ammophilinae

フジジガバチ *Ammophila atripes* Smith, 1852 (図4-7~4-9)

体長20-30mm. メスの頭部，胸部は黒色．腹部第3節以降は黒色で腹柄節（腹部第1節，第2節）は橙色．脚の大部分も橙色．オスではメスよりも黒色味が強く，腹柄の第2節の下半分が赤褐色となる以外は脚を含めて黒色．腹柄節の色彩が異なり，一見オスとメスとで大きく異なるように見える．

日本から台湾，東洋区に広く分布し，日本ではウスムラサキクチババを狩る例が知られている．

本土および朝鮮半島，中国のものは亜種 *A. a. japonica* Kohl, 1906（フジジガバチ本土亜種・フジジガバチ）とされ，沖縄島以南の台湾までの個体群は亜種 *A. a. formosana* Strand, 1913（フジジガバチ琉球亜種・タイワンジガバチ）とされている．

分布；本州，九州，琉球；台湾，朝鮮半島，中国，東南アジア。

ヤマジガバチ *Ammophila infesta* Smith, 1873 (図4-1, 4-4, 4-5)

体長20-25mm. 頭部，胸部は黒色，腹柄部は赤褐色，第3節以降は黒色で藍色を帯びる。

サトジガバチに酷似するが，メスでは中胸背板の点刻が小さく疎であること，オスでは中胸背板後方の点刻は多少ともしわを形成するが，前方の点刻は小さく散在し，しわは見られないことで区別される。

山地に多く見られる傾向があり，本州中部では標高約300m以上の内陸部に生息する。

分布：北海道，本州，四国，九州，屋久島，奄美；朝鮮半島，ウスリー，樺太，極東ロシア。

サトジガバチ *Ammophila sabulosa* (Linnaeus, 1758) (図4-2, 4-6)

体長22-27mmで最も普通に見られる種。頭部，胸部は黒色，腹柄部は赤褐色，第3節以降は黒色で藍色を帯びる。メスの中胸背板の点刻は輪郭が不明瞭で，横あるいは斜めのしわとなる事がある。オスでは中胸背板に強い横じわがある。

土中に営巣し，シャクガ類，エグリバ類，ヨトウガ類，モンシロチョウ，スジグロシロチョウ等の幼虫を狩って子の餌とする。4月から10月頃まで活動し，1年で数世代を経るもの考えられる。低地に多く見られる。日本産のものは亜種 *A. s. nipponica* Tsuneki, 1967とされる。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，屋久島，種子島，口永良部島；朝鮮半島，中国。

ミカドジガバチ *Hoplommophila aemulans* (Kohl, 1901) (図4-3)

体長23-27mmの大形の種。体は黒色で，腹部第1背板両側，後縁，第2背板は赤色，第3節以降は黒色。

木の幹の空洞部等に小石や木片を運んで巣を作り，シャチホコガ科の幼虫を狩る。

分布：本州，四国，九州，対馬；台湾，東アジア。

#### ドロジガバチ亜科 Subfamily Sceliphroninae

ベンガルルリジガバチ *Chalybion (Chalybion) bengalense* (Dahlbom, 1845) (図7-3)

体長13-16mm. 体全体が藍色に輝く。腹柄節は側方から見て穏やかに弧をえがく。また，前伸腹節後縁近くの両側に白毛の束をもつ。

地上部に泥で巣を作り，クモを狩る。

分布：琉球（沖縄島，波照間島，石垣島），小笠原，火山列島（硫黄島）；東南アジア，太平洋諸島，オーストラリア，アフリカ，ハワイ。

ヤマトルリジガバチ *Chalybion (Chalybion) japonicum* (Gribodo, 1883) (図7-1, 7-2)

体長15-20mm. 体は光沢のある濃藍色。腹柄節が強く弧をえがくことでベンガルルリジガバチとは容易に区別される。

竹筒等に営巣し，ヒメグモ科，アシナガグモ科等のクモを狩る。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島，琉球，小笠原；朝鮮半島，台湾，中国，ベトナム。

モンキジガバチ *Sceliphron (Hensenia) deforme* (Smith, 1856) (図6-5, 6-6)

体長15-20mm. 体は黒色で，前胸背板，中胸側板，小盾板，前伸腹節に黄色紋がある．腹部第1，第2節の後縁は赤褐色で，第3節以下の各節の後縁は黄褐色．腹柄節は短く，側方から見て弧をえがく．

琉球，台湾の個体群が原名亜種で *S. d. deforme* (Smith, 1856) (モンキジガバチ沖縄亜種・タイワンモンキジガバチ)，本土の個体群には亜種 *S. d. nipponicum* Tsuneki, 1972 (モンキジガバチ本土亜種・ニッポンモンキジガバチ) の名が与えられている．亜種 *deforme* は *nipponicum* に比べ頭部や胸部の黄斑が発達する．千葉県およびその周辺からは原名亜種が採集されており，人為的移入による定着と判断される．7月から10月にかけて見られる．

地上部に泥で巣を作り，ハエトリグモを狩ることが知られている．

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，沖縄；朝鮮半島，台湾，中国，ロシア（沿海州），東南アジア，インド．

アメリカジガバチ *Sceliphron (Sceliphron) caementarium* (Drury, 1773) (図6-3, 6-4)

体長20-25mm. 黒色で，橙黄色あるいは橙赤色の斑紋をもつ．腹柄節は黒色．

アメリカ本土原産とされ，戦後日本へ侵入，定着したとされている．国内ではツグロオニグモを狩った報告がある．

分布：本州，九州，小笠原，火山列島（硫黄島），南鳥島；汎熱帯・亜熱帯．

キゴシジガバチ *Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum* (Fabricius, 1781) (図6-1, 6-2)

体長20-28mm. 体は黒色で，前胸背板，中胸側板，肩板，脚に黄色部をもつ．腹柄節は黄色で，側方から見て直線状．

泥で巣を作り，複数の育室を作った後に，さらに全体を泥で塗り固める．多くの種類のクモを集めるが，オニグモ類の幼体とハナグモ類を最も多く狩って子の餌とする．

本土から沖縄島までに亜種 *S. m. kohli* Sickmann, 1894 (キゴシジガバチ本土沖縄亜種・キゴシジガバチ) が見られ，八重山諸島および台湾に亜種 *S. m. formosanum* van der Vecht, 1968 (キゴシジガバチ先島亜種・タイワンキゴシジガバチ) が分布するが，両亜種間の区別は困難な場合がある．

分布：本州，四国，九州，対馬，琉球；台湾，中国，ベトナム．



## 日本産セナガアナバチ科, アナバチ科目録

### Family Ampulicidae セナガアナバチ科

#### Subfamily Ampulicinae セナガアナバチ亜科

- Ampulex dissector* (Thunberg, 1822) サトセナガアナバチ 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, 台, 中  
*Ampulex tridentata* Tsuneki, 1982 ミツバセナガアナバチ 琉  
*Ampulex micado* Cameron, 1905 日本 [正体不明種]  
*Ampulex dentata* Matsumura et Uchida, 1926 フタツバセナガアナバチ [正体不明種]

#### Subfamily Dolichurinae アマミセナガアナバチ亜科

- Dolichurus amamiensis* Tsuneki et Iida, 1964 アマミセナガアナバチ 琉; 台, フィリピン, タイ, スリランカ

### Family Sphecidae アナバチ科

#### Subfamily Sphecinae アナバチ亜科

- Isodontia auripygata* (Strand 1913) ツマキアナバチ 琉; 台, 中, ベトナム  
*Isodontia boninensis* (Tsuneki, 1973) オガサワラアナバチ 小  
*Isodontia harmandi* (Pérez, 1905) アルマンアナバチ 本, 四, 九, 対; 朝  
*Isodontia maidli* (Yasumatsu, 1938) キバネアナバチ 本, 四, 九, 屋, 奄  
*Isodontia nigella* (Smith, 1856) コクロアナバチ 北, 本, 九, 対, 琉; 朝, シベリア, 東南アジア, オーストラリア  
*Prionyx viduatus* (Christ, 1791) オキナワアナバチ 琉; 台, 中, インド, 中東, ヨーロッパ, アフリカ  
*Sphex argentatus* Fabricius, 1787 クロアナバチ  
*Sphex argentatus argentatus* Fabricius, 1787 クロアナバチ琉球亜種・クロアナバチ・タイワンクロアナバチ 琉; 台, 東南アジア, インド, スリランカ, ニューギニア, オーストラリア  
*Sphex argentatus fumosus* Kohl, 1890 クロアナバチ本土亜種・クロアナバチ 本, 四, 九, 屋; 朝  
*Sphex diabolicus* Smith, 1858 キンモウアナバチ  
*Sphex diabolicus flammitrichus* Strand, 1913 キンモウアナバチ本土沖縄亜種・キンモウアナバチ 本, 九, 屋, 琉; 台, 中, ベトナム  
*Sphex inusitatus* Yasumatsu, 1935 フクイアナバチ  
*Sphex inusitatus inusitatus* Yasumatsu, 1935 フクイアナバチ九州亜種 九; 中

*Sphex inusitatus fukuianus* Tsuneki, 1957 フクイアナバチ本州亜種 本

*Sphex sericeus* (Fabricius, 1804) キンイロアナバチ

*Sphex sericeus lineolus* Lepeletier, 1845 キンイロアナバチ琉球亜種・キンイロアナバチ  
沖；台，中，スマトラ，ビルマ

*Sphex subtruncatus* Dahlbom, 1843 日本 [分布疑問]；台，朝，中，スマトラ，インド，スリランカ，フィリピン，マレーシア

#### Subfamily Ammophilinae ジガバチ亜科

*Ammophila atripes* Smith, 1852 フジジガバチ

*Ammophila atripes formosana* Strand, 1913 フジジガバチ琉球亜種・タイワンジガバチ  
屋，琉；台

*Ammophila atripes japonica* Kohl, 1906 フジジガバチ本土亜種・フジジガバチ 本，九；  
朝，中

*Ammophila infesta* Smith, 1873 ヤマジガバチ 北，本，四，九，屋，奄；朝，ウスリー，樺太，極東ロシア

*Ammophila sabulosa* (Linnaeus, 1758) サトジガバチ

*Ammophila sabulosa nipponica* Tsuneki, 1967 サトジガバチ本土亜種・サトジガバチ  
北，本，四，九，対，屋；朝，中

*Hoplommophila aemulans* (Kohl, 1901) ミカドジガバチ 本，四，九，対；台，東アジア

#### Subfamily Sceliphroninae ドロジガバチ亜科

*Chalybion (Chalybion) bengalense* (Dahlbom, 1845) ベンガルルリジガバチ 琉，小，火；東南  
アジア，ハワイ，太平洋諸島，オーストラリア，アフリカ

*Chalybion (Chalybion) japonicum* (Gribodo, 1883) ヤマトルリジガバチ 本，四，九，対，屋，  
琉，小；朝，台，中，ベトナム

*Sceliphron (Hensenia) deforme* (Smith, 1856) モンキジガバチ

*Sceliphron (Hensenia) deforme deforme* (Smith, 1856) モンキジガバチ沖縄亜種・タイワン  
モンキジガバチ 本，沖；台，朝，中，東南アジア，インド，ロシア

*Sceliphron (Hensenia) deforme nipponicum* Tsuneki, 1972 モンキジガバチ本土亜種・ニッ  
ポンモンキジガバチ 北，本，四，九，対

*Sceliphron (Hensenia) deforme koreanum* Uchida, 1925 コウライモンキジガバチ [分布疑問]

*Sceliphron (Sceliphron) caementarium* (Drury, 1773) アメリカジガバチ 本，九，小，火（硫黄島），  
南鳥島；汎熱帯・亜熱帯

*Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum* (Fabricius, 1781) キゴシジガバチ

*Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum kohli* Sickmann, 1894 キゴシジガバチ本土沖縄亜  
種・キゴシジガバチ 本，四，九，対，琉；中，ベトナム

*Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum formosanum* van der Vecht, 1968 キゴシジガバチ  
先島亜種・タイワンキゴシジガバチ 宮，八；台

## 謝 辞

本報を作成するにあたり、貴重な標本を御貸与下さり、点検させて下さった南部敏明氏に厚く御礼申し上げます。

## 参 考 文 献

- 長瀬博彦, 2005. 日本新記録のアナバチ. つねきばち, 4 : 26.
- 野坂千津子, 1987. アメリカジガバチ, ツグロオニグモを狩る. 蜂友通信, 27 : 63-64.
- 須田博久, 1972. 千葉県のモンキジガバチは台湾亜種. 生物研究 (福井), 16 : 26-30.
- 高橋秀男, 2005. ツマキツツアナバチの記録. つねきばち, 5 : 17-18.
- 寺山 守, 2005. 日本産有剣膜翅類検索表 1. アナバチ型ハチ類 (ミツバチ上科) の科及び属の検索. つねきばち, 3 : 1-22.
- 常木勝次, 1958. 蜂類研究手引 2. アナバチ (*Sphex*) 属. 福井生物研究会会誌, 5 : 11-17.
- 常木勝次, 1962. 蜂類研究手引(15) (5)ジガバチ (*Ammophila*) 属. 生物研究 (福井), 6(2) : 24-27.
- 常木勝次, 1968. ジガバチの生態分布と亜科. 生物研究 (福井), 12 : 1-7.
- 常木勝次, 1968. サトジガバチの習性について. 生物研究 (福井), 12 : 8-14.
- Tsuneki, K., 1963. Comparative studies on the nesting biology of the genus *Sphex* (s.l.) in East Asia (Hymenoptera, Sphecidae). Mem. Fac. Lib. Arts, Fukui Univ., Ser. II, Nat. Sci., 13 Pt. 2, 13-78.
- Tsuneki, K., 1967a. On some Ampulicidae from Formosa (Hymenoptera). Etizenia, 23 : 1-21.
- Tsuneki, K., 1967b. Studies on the Formosan Sphecidae. (IV). Etizenia, 26 : 1-24.
- Tsuneki, K., 1971. Studies on the Formosan Sphecidae. (IX). Etizenia, 53 : 1-7.
- Tsuneki, K., 1972. On some species of the Japanese Sphecidae (Hym.), notes and descriptions. Etizenia, 59 : 1-20.
- Tsuneki, K., 1973. New and the first recorded species and subspecies of Sphecidae and Mutillidae from Japan, with taxonomic notes on some species. Etizenia, 65 : 1-28.
- Tsuneki, K., 1982. Studies on the new material of sphecidae, Chrysididae and Mutillidae of Formosa and the southern Ryukyus (Hymenoptera). SPJHA, 23 : 15-45.
- 山根正気, 1999. アナバチ群. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説 (山根正気・幾留秀一・寺山守共著). 北海道大学図書刊行会, 466-548.